

	発行者	東京書籍株式会社	開隆堂出版株式会社
	書名	新編 新しい家庭	わたしたちの家庭科
(ア) 教科・種目に共通な観点	①編集の趣旨と工夫	児童のわくわくする気持ちを大切に、生活をよりよく工夫し、家族や地域の人々と協力して、豊かで楽しい家庭や地域の生活をつくっていくことができる資質・能力を育むことを目指している。その工夫として、「生活をよりよく変えていく力が身につく」「3ステップで問題解決的な学習が展開できる」「実践的・体験的に楽しく学びながら生活の自立を目指す」の3つを挙げている。	一人ひとりの児童が体験や実践を通して、できることを増やし、生活を工夫し、よりよい家庭生活につなぐことを目指す過程で、児童が自分と家族の生活を見つめ、課題に気づき、生活の基本的な知識や技能を身につけ、様々な課題に取り組みながら、問題解決能力を培う。「ストーリーが見える構成」「キャリア教育との関連を重視」「主体的に地域・社会へ参画する」「家庭科学習を持続可能な生活・社会につなぐ」「伝統・文化や他国の尊重」という5つの方針で編修している。
	(7) 教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連 「教育基本法（第1条、第2条）及び学校教育法（第30条2項）に基づき、学習指導要領において示された「資質・能力」の3つの柱で整理された各教科の目標を踏まえた工夫や配慮がなされているか。 ①生きて働く「知識・技能」を習得するための工夫や配慮 ②未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成を図るための工夫や配慮 ③学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」を涵養するための工夫や配慮	① 実践的・体験的な題材が複数掲載されている。めあてと振り返りを意識させている。 ② 「見つめよう」「計画しよう・実践しよう」「生活に生かそう・新しい課題を見つけよう」の3つのステップで大題材を構成し、問題解決的な学習ができるように工夫されている。 ③ 自身の成長を実感し、自己肯定感を高めることができる「成長の記録」、家庭や地域の生活に関する課題解決を行う「生活を変えるチャンス！」を実践しやすい長期休業に合わせて設定、働く人を特集した「プロに聞く!」、地域の一員として自分にできることを考えられる資料を掲載し、生活に結びつけられるようにしている。	① 実践的・体験的な題材が複数掲載されている。めあてと振り返りを意識させている。 ② 「気づく・見つける」「わかる・できる」「生かす・深める」の3つのステップで題材を構成し、課題解決的な学習が取り組めるようになっている。 ③ 「レッツトライ！生活の課題と実せん」や5・6年の接続の部分で「生活の課題と実せん」をまとめて挙げ、家庭や地域、学校で実践できるようにしている。職業観を養い、社会に目を向けることができるよう「キャリアインタビュー」を各所に入れたり、巻末に掲載したりしている。
	(4) 市町の方針との関連 ①小田原市 ②箱根町 ③真鶴町 ④湯河原町	どの地域でも使いやすいよう、題材が組み替えやすくなっている。活動や実習例を豊富にすることで、選択できるようになっている。	どの地域でも使いやすいよう、題材が組み替えやすくなっている。活動や実習例を豊富にすることで、選択できるようになっている。
	(ウ) 内容と構成 ○ 小学校学習指導要領（平成29年告示）の改訂の要点を踏まえた工夫や配慮がなされているか。 ①主体的・対話的で深い学びの実現に向けた学習活動に資する工夫や配慮 ②他教科との関連等、カリキュラム・マネジメントに資する工夫や配慮 ○ 学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされているか。 ③言語能力の確実な育成 ④伝統や文化に関する教育の充実 ⑤体験活動の充実 ⑥学校段階間の円滑な接続 ⑦情報活用能力の育成 ⑧児童の学習上の困難さに応じた工夫 ○ 児童にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮がなされているか。	① 3つのステップで大題材が構成されている。ステップ1と2では、主に主体的・対話的に取り組める活動を掲載している。ステップ3の中の「活動 深めよう」では、大題材全体の学びを生かして取り組む課題を設定している。各ステップにめあてと振り返りが記載され、いつでも確認しながら学習に取り組むことができる。 ② 他教科と関連する内容にはマークが付けてある。家庭科に関係のある英単語を脚注に記載している。 ③ 実践したことのみとめ方の例など提示してある。 ④ 「日本の伝統」マークを掲載し、日本茶、食器、みそ汁、伝統食品、だし、郷土料理、てぬぐいなどを特集している。 ⑤ 実習・製作などの活動が取り入れられている。 ⑥ 4年生までの学習との関連が示されている。中学校家庭分野と関連を示すために、「関連マーク」を掲載している。 ⑦ Dマークが各所に二次元コードがページ右上についている。ステップ1ではデジタル思考ツールのトライシート、ステップ2では動画コンテンツ、ステップ3では「活動 深めよう」で使えるワークシートが収められている。 ⑧ 見やすく間違えにくいデザインでデザインの色、色覚の多様性に配慮した配色及びデザイン、学習の見通しが立てやすいステップ1～3のタイトルなどの工夫がある。 ○ 基礎・基本から応用へと系統的に配列している。5年生で学んだ技能を6年生でも使うことで確実な定着を図るようにしている。	① 3つのステップで大題材が構成されている。導入ページに各ステップのめあてが示されていて大題材の学習を終えるときに、めあてについて振り返るチェック欄がある。また、自分の言葉で「これからの生活に生かしたいこと」を書き込めるスペースがある。児童同士や家族・身近な人たちと行う「考えよう」「話し合おう」「調べよう」「やってみよう」「発表しよう」などの活動が随所に入っている。 ② 他教科と関連する内容にはマークが付けてある。家庭科に関係のある英単語を脚注に記載している。 ③ 実践したことのみとめ方の例など提示してある。 ④ 「日本の伝統」マークを掲載し、お茶のマナー、食文化、だし、おやつ、ふろしき、風鈴などを特集している。 ⑤ 実習・製作などの活動が取り入れられている。 ⑥ 4年生までの学習との関連が示されている。中学校家庭分野と関連を示すために、「関連マーク」を掲載している。 ⑦ 二次元マークが各所に、二次元コードがページ右上についている。学習に使えるワークシート、動画等が収められている。ICT 機器上で動かして確認できる動作コンテンツも収められている。 ⑧ ユニバーサルフォントを採用している。弱視の子に読み取りやすいカラーデザインの配慮、罫線や色付けなどが工夫されている。 ○ 基礎・基本から応用へと系統的に配列している。5年生で学んだ技能を6年生でも使うことで確実な定着を図るようにしている。
(イ) 分量・装丁・表記等 ① 各内容の分量とその配分は適切であるか。 ② 体裁がよく、児童が使いやすいような工夫や配慮がなされているか。 ③ 文章表現や漢字・用語・記号・計量単位・図版等、児童が理解しやすいような工夫や配慮がなされているか。	① 概ね適切である。 ② A4判というサイズを生かし、写真や製作手順、調理手順など、大きく見やすく配置している。軽量の紙を使用。開いた状態を保ちやすくしている。 ③ 実物大の野菜の写真があるなど、わかりやすい工夫がなされている。動画では、注目させたい箇所をアップにして見せることで、紙面や言葉による説明だけではわかりにくい部分をはっきりと示している。	① 概ね適切である。 ② AB判からA4判へと教科書のサイズが大きくなった分、軽量の紙を使用。見開きページを使って製作手順や調理手順などを配置することにより、流れを意識することができる。図や写真などを大きく提示している。自分の言葉で記述できるスペースがあり、使用している紙が鉛筆でも書きやすいものになっている。 ③ 背景に色を付けたり、写真ではなく絵にしたりすることで、色のメリハリがついてわかりやすくなっている。	
(イ) 教科・種目別の観点	①生活の営みに係る見方・考え方を働かせた学習となるよう、題材に工夫や配慮がなされているか。	① 家庭科の4つの見方・考え方「協力、健康・快適・安全、生活文化、持続可能な社会」が目次で紹介され、各大題材の最初に「家庭科の窓」を設定し、見方や考えからの視点を意識して、学習が進められるようにしてある。 ① 「持続可能な社会の構築」を消費者教育と合わせて5年生の早い段階で大題材として取り上げている。	① 目次に「生活の見方・考え方4つの視点」(協力、健康・快適・安全、生活文化、持続可能な社会)として図化し、全体にわたってマークやイラストで配置してあり、一連の学習過程の中で生活の営みにかかわる見方や考え方を働かせることができる構成になっている。 ① 5年生の終わりに「持続可能な生活」を意識づけ、6年生へつなげる投げかけを行っている。
	②日常生活に必要となる基礎的な知識及び技能の習得を図るために、実践的・体験的な活動を題材として取り上げるなど工夫や配慮がなされているか。	② 各実習には、「できたかな」として振り返りができるようになっており、技能の定着を図ることができる。 ② 実習にかかわる資料が巻末に集められていて、いつでも確認できるようになっている。持ち方や切り方など、実寸大写真を載せ、自分の手を置いて練習できるようになっている。 ② 実習において、器具・用具の扱い方、衛生面など「安全」マークを付けて注意喚起している。「いつも確かめよう」を巻頭に記載し、実習における安全面・衛生面で気を付けることや、実習中に地震が起こった時の対処などをまとめ、安全指導を徹底している。	② 導入部では、「なぜ調理するのか。」などを問いかけて、児童に考えさせている。 ② 各実習には、「できたかな」として振り返りができるようになっており、技能の定着を図ることができるようになっている。 ② 児童目線の写真を使用し、調理のイメージがしやすい。巻末には、野菜の切り方の実物大写真を載せるなど、イメージをもって実習に臨めるように工夫されている。 ② 調理や製作実習を安全に行うために特設ページを設けたり、「安全」マークなどで注意すべきことをわかりやすく示したりしている。
	③生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決していく題材として工夫や配慮がなされているか。	③ ステップ3で「生活に生かそう・新しい課題を見つけよう」と投げかけ、「深めよう」という活動を設定することで、学習内容を生活に結びつけ、課題を見つけ出し、解決できるようにしている。 ③ 「家族の一員として家庭の仕事を行ってこう」という投げかけを家庭科の学習が始まる5年4月に行うことで、学習を生活の中で生かしていこうとする単元計画になっている。 ③ 長期休業前に、生活の課題を見つけ、解決に取り組む「生活を変えるチャンス！」を設定し、児童が取り組んでみようとするきっかけづくりを行っている。 ③ 学習したことを自己評価し「成長の記録」「5年生のまとめ」「2年間のまとめ」で学習をふり返る場面を設けている。	③ 各大題材の最後に「学習をふり返ろう」「生活に生かそう」など、自分の生活をふり返って生かそうとする取組を促す流れになっている。 ③ 「家庭の仕事」を家族の一員として取り組もうとする投げかけを5年の夏休み前に行い、これまでの学習を生かせるようにしている。 ③ 「生活の課題と実践」の取り組み方を5つのステップで示し、取り組みやすいように具体例を記載している。 ③ 各大題材の終わりには、学習の振り返りとともに、「生活に生かそう」の欄があり、自分の生活を見直し、よりよくしていくことを考える活動を設定している。